

Q3001. 縦型剛体基礎（ケーソン式）の設計計算フローについて教えて？

A3001. 日本地工では、道路標識設置基準・同解説<sup>1)</sup>を参考に、縦型剛体基礎（ケーソン式）の設計計算フローを図1として考えております。

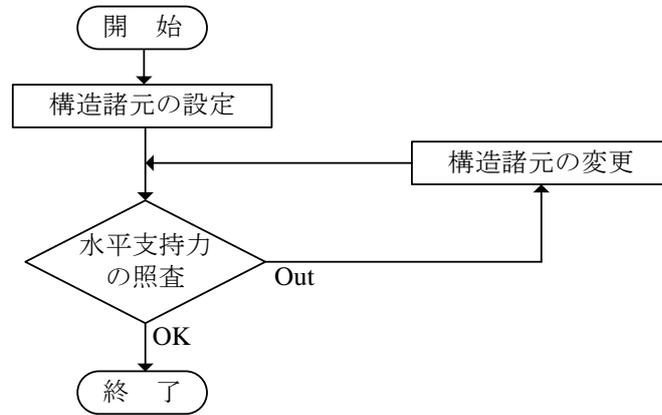


図1 縦型剛体基礎（ケーソン式）の設計計算フロー

縦長剛体基礎（ケーソン式）は小型な道路附属物を対象としていることから、部材に生じる応力度は小さいため、部材の照査の計算を省略しております。ここで、小型な道路附属物の目安としては、道路付属物の基礎について<sup>2)</sup>を参考に、標識板面積であれば $4.5\text{m}^2$ 以下、柱下端に生じる外力であれば水平力 $1.4\text{t}$ 以下あるいは曲げモーメント $8.0\text{t}\cdot\text{m}$ 以下としております。また、水平支持力の照査については、道路標識設置基準・同解説<sup>1)</sup>に記載する設計計算例に記載する照査を実施します。詳細については、[こちら](#)をご参考下さい。

#### 参考文献

- 1) 道路標識設置基準・同解説（日本道路協会、昭和62年1月）
- 2) 建設省道企発第52号 道路付属物の基礎について（建設省、昭和50年7月）